

## 今月の重点活動

### ■小麦 赤かび病の防除の徹底

3月末より、海津市で小麦の出穂が始まった。まず「イワイノダイチ」が出穂し、続いて「さとのそら」が出穂した。

4月4日には、JAにしみの海津営農経済センターが小麦防除会議を開き、RCヘリコプター防除を行う4組織が参加し、小麦の品質、収量確保のため適期防除の段取りを協議、決定された。

農林事務所からは「イワイノダイチ」でわずかに凍霜害が発生していること等、小麦の生育状況を説明し、農産物の安全性確保、作業安全の対策実施と周辺環境への注意を指導した。現場では防除業者、各担い手がRCヘリ、ドローン、乗用管理機を使用して2回防除を実践した。



【小麦の開花】



【凍霜害を受けた穂】

## ぎふ農業・農村を支える人材育成

### ■土地利用型作物 土地利用型営農組織の法人化に向けて

輪之内町では、土地利用型農業の担い手である営農組織の法人化へ向けた打合せが活発に行われている（4/6：下大上営農組合、4/16：海松新田営農組合、4/20：楡俣北部営農組合）。

会議では、輪之内町、ぎふアグリチャレンジ支援センター、JA、農林事務所が支援を行い、必要に応じ社労士などの専門家が招かれている。

農林事務所では、今後も集落営農組織の法人化へ向けて支援を継続していく。



【営農組織支援の様子】

## 安心して身近な「ぎふの食」づくり

### ■有機(水菜) 有機営農モデル実証ほの取り組み

4月12日、神戸町に設置した有機営農モデル実証ほ(水菜)にて、1作目の播種が行われた。

1作目の主な課題は害虫(アザミウマ類等)対策で、化学農薬以外の手段(生物農薬等)による防除に取り組む。農林事務所では、圃場内に有色粘着板を設置してアザミウマ類の発消長を調査し、防除効果の確認を行う。

収穫は5月上旬頃の見込みである。収穫物は有機野菜のPRイベントに活用する計画である。



【播種を行った実証ほ】

## ■きゅうり ドローンによる塗布剤散布を実証

海津きゅうり部会では、高温対策として塗布剤の散布が一部の生産者で行われ、温度昇温抑制効果が期待されている。

塗布散布作業には、作業に時間がかかり、現状では、高所での作業になるため、落下等の事故の危険性がある。そこで、JAにしみの協力のもと、4月11日、ドローンによる塗布剤散布の実証を行った。

ドローンの飛行ルート作成には一定の時間がかかるものの、実際の散布時間は、10aあたり数分で完了した。2回目の同ハウスでの散布には、保存された飛行ルートが活用できるため、10aあたり30分程度と、慣行手散布の1/3の作業時間になることが期待される。

今後、農林事務所は、生育状況、ハウス内環境、経営分析等の調査を行い、部会研修会で報告する予定である。



【ドローンによる塗布剤散布】

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■加工業務用タマネギ 関係機関と生育状況を確認

4月5日、農林事務所はJAにしみの、JA全農岐阜と西濃管内のタマネギ生産ほ場を巡回し、生育及び病虫害発生状況を確認した。

気温は、4月以降高めに推移することが予想され、早生品種は5月中旬から開始される見込みである。また、べと病、アザミウマ類の発生が確認されたほ場では病虫害防除の助言を行い、今後の栽培管理を提案した。

農林事務所では、実需者が要求する高品質な加工業務用タマネギの栽培を支援していく。



【生育状況確認の様子】

### ■なし 花粉の効率的利用を指導

今年度、なしの人工授粉用花粉が不足しており、花粉の効率的利用をすすめる必要がある。

南若森園芸組合においては、4月8日、なしの花粉の発芽検査を行った。南若森地内の倉庫に生産者が花粉を持ち寄り、あらかじめ農林事務所が準備した寒天培地の上に花粉を撒いた。その後、恒温器内で花粉を発芽させ、発芽率の結果報告を行った。

大垣曾根梨部会においては、4月10日、曾根町公民館で研修会を開催した。花粉の効率的利用について説明後、花粉を多量に採取するアセトン精製の実演を行った。

今年度、なしの開花期は好天に恵まれており良好な着果で、多収になるよう技術支援を行う。



【研修会の様子】